

相馬
ゆうこの

南千住レポート

まちづくり・
くらしの情報を
届けます

区議団控え室 荒川区荒川2-2-3区役所内5階 ☎3802-4627

FAX:3806-9246/メール:arajcp@tcn-catv.ne.jp

相馬ゆうこ事務所 荒川区南千住5-1-6・2階

☎・FAX:3807-4192

jcp-arakawakugidan.jp/
ツイッター @m1010_yuko
araken-nan.jugem.jp

累計感染者 区民10人に一人、59歳以下が89%

第7波への
備えも必要!?

区内感染者数は先週2万1千人を超え、1月1日の5,738人から約4倍になりました。区民の10人に1人が感染、年代別では、0～50歳代で89%、60歳以上は11%（約2,500人）です。



感染は減少傾向かと思われましたが、3月の中旬から再増加。自宅待機は1,000名を切っていますが入院者は210名と高どまりで、軽症者が多数ですが心配です。

若者の3回目
ワクチン接種も

感染者は、20歳代が4,355人（20.3%）、30歳代4,000人（18.4%）、40歳代3,470人（16.1%）、50歳代2,147人（10.0%）と現役世代が大半です。若年層の活発な社会活動や人的交流がすすむ一方で、3回目のワクチン接種の実施も問

累計感染者数・年代別

20代	4,355名	20.3%
30代	3,967名	18.4%
40代	3,470名	16.1%
0～9才	2,846名	13.2%
10代	2,255名	10.5%
50代	2,147名	10.0%
60代	1,025名	4.8%
70代	752名	3.5%
80代	501名	2.3%
90代	173名	0.8%
100代	12名	0.1%
計	21,503名	100.0%

荒川区の年代別
-3回目接種率-

われています。

高齢者の感染が少ないのは、3回目のワクチン接種を終えて、引き続き外出抑制など感染防止の努力があったことが大きな原因のようです。

無料PCR

検査できます

必要な無料検査を受けましょう。BiViの福太郎となりで無料PCR

R検査や三ノ輪橋都電ホームの脇のウエルシア薬局でも可能です。

ワクチン接種3回目もサンパール、ホテルラングウッド、町屋ふれあい館で実施。

今年の区立学校新入生～小1,569人・中1,099人



今年度の小学校の新入学児童は1,698人（うち区立は1,569人）で、昨年より22人増。南千住地域では、465人で22人減です。

三瑞小は100名超え



三瑞小は昨年よりやや減少ですが、100名を超え4クラス編成。7丁目のマンショ

ン建設が続き、今後も児童数増による教室不足が懸念されます。

汐入東小では、児童数が落ち着きをみせる一方、汐入小はふたたび増加に転じています。六瑞小は学区域の学齢児童数も減少で9名で

すが、少人数のよさと学年を超えて関わりを持てる経験など、選択する保護者の方も少なくありません。

【中学校の新入生の状況】

中学は3割が「区立以外」 区立中学の新入学生徒（夜間除く）は1,099人で、昨年より50人減。

小学校は9割以上が区立小に進学ですが、中学校は、区立は約7割です。公私立ともに、子どもの自主性を活かし、権利が尊重される教育環境が大切です。また、



地域生活を大切に、みんなで子どもたちを育てるつながりをもてるようにしたい。

コロナ禍でさらに 少人数学級拡大を

少人数学級を望む声がコロナ禍でさらに大きくなり、段階的に小学校40→35人編成に引き下げ実施へ。今年度は小3年生までが35人学級実施ですが、政府の計画を前倒しすることや中学校まで実施するようにもとめています。

学区外選択は 過去最少

学区域外の区立を選択した子どもたちは、多い年で17%程度ですが、今年は小14%・中12.5%とどちらも過去最少でした。

希望校を選べる学校選択制度は、約8割の保護者が賛成です。しかし、実際は、学区域内の学校を大多数が選択しているのが実情です。

学齢数	1,572人
区立	1,099人 (うち区外在住8人)
通常学級	1,071人
特別支援学級	28人
区立以外	481人
国・私立	406人
区外公立	33人
特別支援学校	8人
その他 (インターナショナルスクール等)	34人



〈法律・生活相談〉 5月の定例法律相談日は12日(木)です

ご要望やご相談などは随時ご連絡ください。事務所での定例法律相談は、毎月第二木曜午後6時からですが、平日の午後に法律事務所（北千住）でも可能です。

お名前、電話番号等を下記の留守番電話に録音して下さい。

相馬 ゆうこ事務所 南千住5-1-6-2階 ☎3807-4192

お知らせ～新・木村病院とナーシングホームの内覧会

新・木村病院開設



ナーシングホーム南千住



内覧会日程：5月9日・13日・17日・23日・24日・25日・26日・27日・30日・31日
 受付時間：10:00～16:00（受付終了後、入館不可）
 予約受付：03-6284-4351 FAX:03-6284-4351
 お電話でのお申し込みも可能です。電話（受付時間内）：090-6199-6362

5月6日から都電1中電停わき（南千住1丁目）で新たに外来診療開始を予定している木村病院ですが、内覧会を4月24日に午前・午後2回実施する予定です。

南千住6丁目ライフそばで建築中の「ナーシングホーム南千住」は、6月から開設予定、内覧会が5月9日から行われるようです。

この施設は、定員40名の医療ケアが必要な方の入所も想定した介護付き住宅で、利用料は家賃・管理費・食費などで116,100円＋介護負担が見込まれています。



新病院内覧会のお知らせ

5月6日に外来を開始する
南千住1丁目新病院の内覧会を行います

4月24日（日） 午前10時～12時
午後1時～4時

- 予約は不要です
- 発熱や風邪症状のある方はご遠慮ください



「緑のカーテン」用の苗を無料で配布します



今年の夏は、「緑のカーテン」で乗り切りませんか。つる性植物を窓際のネットに這わせ室温と気化熱で周囲の温度も下げてくれます。



【配布日】 5月15日（日）10～15時・あらかわエコセンターで、ゴーヤ又はモミジヒルガオの苗を無料で配布します。1世帯につきどちらか2株で、各200株まで。事前申し込みが必要…ハガキか区ホームページからお申込み下さい。

【申込方法】 ハガキは①「緑のカーテン用苗配布会」と記載②住所③名前④電話番号⑤希望する苗の種類を記載し、「〒1160002 荒川区荒川1-53-20 あらかわエコセンター2階 環境課環境推進係」まで。後日、係からハガキで返信が届きます。応募多数の場合は抽選です。【問合せ】環境課環境推進係 ☎3802-3111（内線：482）

まだ続く、マンション建設

大和ハウスの東京三菱第二ビル（日光街道・賃貸3か所目 1丁目59）が解体され、118戸の賃貸マンション、15階建てで2棟を中廊下でつなぐ構造で建築予定です。

大和ハウスは、南千住2丁目、1丁目で2か所目の賃貸住宅「ロイジェントシミノ輪リーズ」を建築することになります。東京集中が続く、一方で、人口は転出超過になってきています。



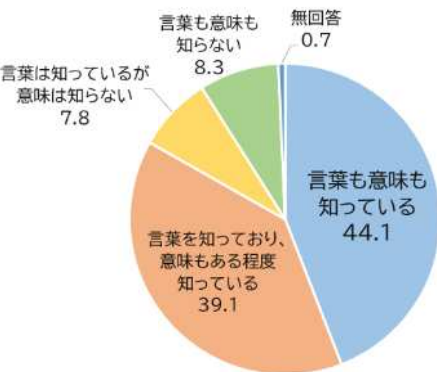
パブコメ終了「同性パートナーシップ制度」が4月下旬に実施へ

荒川区は「同性パートナーシップ制度」のパブリックコメントの結果をふまえ、4月下旬から制度を実施する予定です。パブリックコメントは2月4～25日の3週間オンライン等で実施、31名の区民から70件の意見・要望が寄せられました。

制度について「賛成」「必要だ」との意見が大半ですが、「反対」の意見も。これに対して、区は「日々の生活の中で性自認や性的指向に悩み生きづらさを感じていらっしゃる方に寄り添い、支援するために導入するもので、当事者支援に必要な制度」と改めて表明。区民や関係団体などの理解も広げ、人権を守り多様性を尊重する社会づくりにすすみたい。

LGBT「知っている」8割

「2021年度区政世論調査」では、「性的マイノリティやLGBTという言葉とその意味を知っていますか」という質問に対し、約8割の区民が「知っている」と回答。「言葉は知っているが意味は知らない」「言葉も意味も知らない」はそれぞれ1割程度でした。



都制度は秋頃から

制度導入目前ですが、実際にどのような区のサービスを提供するのかなどまだ「調整中」です。東京都も同様の制度を秋頃から実施の見込みで、「各区の証明書との相互活用を図る」としており、区の制度との兼ね合いなど課題です。「パートナーシップ関係を認めるだけでなく、実効性のある制度に」「他自治体との連携を」「夜間も申請受付を」など具体的な意見・要望も寄せられており、よりよい制度となるよう区議会でも引き続き議論していきます。

同性パートナーシップ制度は、同性婚のような法的な強制力はなく、自治体が2人の関係性を証明するものです。

そのうえで○医療機関の面会、立ち合いなど家族同様の扱い○生命保険の受取人○アパート賃貸契約など民間団体に適切な対応を要請します。また、公的サービスでも○公営住宅などの申込、入居○保育園・幼稚園入園○納税などの対応などさまざまな要望があります。

※LGBTとは…

L=レズビアン
(女性として女性が好きな人)
G=ゲイ
(男性として男性が好きな人)
B=バイセクシュアル
(異性も同性も好きになる人)
T=トランスジェンダー
(心の性と体の性の違和感を感じる人)

言葉やその意味については知っていても、当事者の悩みなどについては、もっと多くの区民の理解が必要です。制度を作って終わりではなく、これをきっかけとして当事者への理解が深まる環境づくりに、区として力を尽くしてほしい。

ご意見・ご質問頂きました

○「次の都営住宅の申し込みはいつですか?」とご質問ありました。5月6日からはじまります。情報が次第具体的なお知らせもしたいと思います。○「子どもが陽性になり、いっしょの生活で家族感染せざるを得ません。仕事に行けず、どうしたらいいの」と深刻な声も。引き続き保育園・学校・学童クラブでの感染がつついており、保健所も無症状の感染者まで対応できず、濃厚接触の追跡や確認、PCR検査の手配なども現場任せになっているのが実情のようです。第7波も想定し、感染防止と経済支援など必要な対策を明確にする時

